

第3回家庭教育支援指導者等研修 実施レポート

日時：令和5年9月21日（木）10時～14時 参加者：38名（うち市町村等から19名）
会場：秋田県生涯学習センター講堂

「地域やチームのつながりで家族を支えよう」というテーマのもと研修会を行いました。午前は「自分たちではできないことをネットワークの力で実現する」講師の取組を通して、つながりづくりの大切さを学びました。午後は、大雨の影響で、研修内容等の変更を余儀なくされましたが、午前の講話をもとにグループワークを行い、意見交流を通して自分たちの活動を振り返りました。

【午前の部 講話】



NPO法人はちのへ未来ネット代表理事の **平間 恵美** 氏が『絆の力で子どもと親の「育ち」を応援～自分たちではできないことをネットワークの力で～』と題してお話をされました。

はじめに、自身が「はちのへ未来ネット」を立ち上げた際の経緯やそのビジョンについて紹介されました。子どものために活動している個人・団体などが「福祉」や「教育」といった垣根を越えて、横のつながりをもつために団体を立ち上げたことに触れ、子どもと親が希望と安心感をもって幸せに暮らせる地域づくりを目標として掲げ、ネットワークの力で子どもと親の育ちを応援する取組について説明をしていただきました。実際の活動については、子育てサークルで行われる「新米ママ・パパ」のための活動について多く紹介されました。それらの取組の根底には、参加した親子が、今後行われるであろう様々な地域行事等に参加する際のハードルを下げたり、先輩ママやパパなどたくさんの人々と関わるつながりづくりが目標として押さえられており、平間氏が掲げるビジョンがしっかりと位置づけられていることが分かりました。

また、八戸市の取組も紹介され、地区の社会福祉協議会との連携や公民館などの生涯学習・社会教育実践との連携など、地域の中では福祉と教育に垣根がないことを説明されました。他にも平間氏は自身に関わる取組を紹介されました。障害をもつ子どもと保護者から学ぶ場をつくったり、高校生が子育てボランティアをすることで、放課後や週末の居場所づくりの健全育成と「将来のママ・パパ」としての体験をする場をつくったりするなど、トライアル&エラーを繰り返しながら活動されていることを紹介すると、参加者は大きく頷きながら聴いていました。

講話のまとめでは、「地元愛で育つ子どもはたくさんの宝物を受け取ります」と述べられ、教育や福祉の垣根を越えて大人が手をつなぎ、それぞれが得意なことを持ち寄ることで子どもと親が希望と安心感をもって幸せに暮らせる地域づくりが実現されると締めくくられました。

【午後の部 講話・演習】

午後の演習では、はじめに平間氏による絵本の読み聞かせが行われました。読み聞かせ後、学校をはじめとするたくさんの団体と一緒に活動するためには目標の共有が大切であることを強調され、参加者に大きな示唆を与えてくださいました。

つづいて、秋田県生涯学習センター副主幹（兼）班長 **柏木 睦** がファシリテーターを務め、ワークショップ形式で話し合いを行いました。



午前の講話の感想や、参加者自身がやってみたいことについて話し合いました。参加者は、様々な職種の方の取り組みたいことなど、多くの考えを知り「自分に何ができるのか」「何をしたいのか」を考えるきっかけとなったようです。時折笑い声の交じる和やかな雰囲気が進められ、活発な意見交流ができた演習となりました。

【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・熱意はもちろんのこと周囲の人とうまくつながる、力を貸してもらうというのが重要であると感じました。講師の先生の話の聞くと今すぐにでも何かしなければという思いが強くなりました。
- ・地域の見守りの中で子どもが育ち、その中からお互いに気づきがあり、学びとなる。思いを共有する仲間作りの大切さを学ぶことができ、とても良かったと思います。